



北九州SDGs

北九州 歴史と夢は みなとから



スナQ®

北九州港マスコットキャラクター
「スナQ」

令和4年度

風力発電関連産業の総合拠点形成関連予算

～総額 18億5,590万円を計上～



わが国の「2050年カーボンニュートラル」実現に向け、脱炭素電源として中心的な役割を果たす洋上風力発電については、官民の活発な議論に加え、一般海域における大規模洋上ウインドファームの事業者が決定するなど、本格的展開に向けた環境が整いつつあります。

本市は、2011年度に「グリーンエネルギーポートひびき」事業を立ち上げ、響灘地区の充実した港湾インフラと広大な産業用地を活用し、「風力発電関連産業の総合拠点」の形成を推進しています。

その中、令和4年度は、国より指定を受けた洋上風車の積み出しなどの機能を担う「基地港湾」やウインドファーム建設時に使用するSEP船をはじめとした「作業船基地」などのインフラ整備、また、R4年度末に迫った響灘港湾区域における大規模洋上ウインドファームの着工や企業誘致等産業集積に向けた取組み、さらには人材育成や一般海域における洋上風力発電の検討に関する取組みにかかる予算を計上しています。

SDGs 未来都市として、本市グリーン成長戦略や北九州港カーボンニュートラルポートの実現にも資する本事業の更なる推進により、港頭地区における物流・産業の振興、さらには市域経済の活性化を図ってまいります。

【問合せ先】

(港湾空港局事業に関すること)
港湾空港局エネルギー産業拠点化推進課
園(課長)、伊東(係長)
TEL: 093-582-2994

(環境局事業に関すること)
環境局再生可能エネルギー導入推進課
岡島(課長)、酒井(係長)
TEL: 093-582-2238



北九州SDGs



スナQ®

北九州港マスコットキャラクター
「スナQ」



PORT OF
KITAKYUSHU

令和4年度

風力発電関連産業の総合拠点形成関連予算

～総額 18億5,590万円～

【事業名】

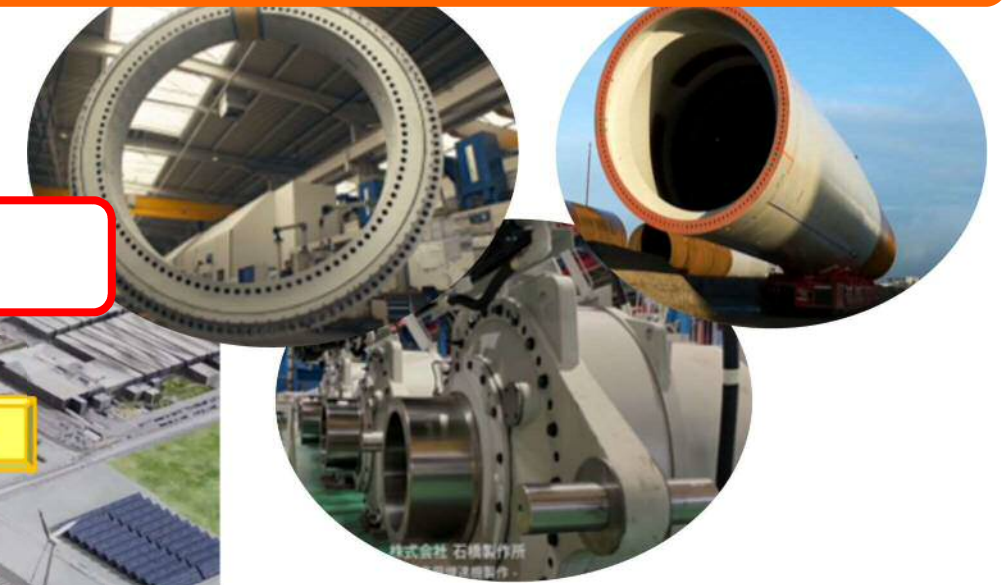
- 国直轄事業負担金（洋上風力） 765,000千円
※令和3年度2月補正予算（810,000千円）と合わせ、1,575,000千円の事業費を計上
- 響灘東地区SEP船等基地化事業 328,700千円
- 響灘洋上風力発電拠点化推進事業 26,300千円
- 響灘東地区埋立地整備事業 631,600千円
- 風力発電関連産業集積事業 7,300千円
- 北九州市風力発電人材育成事業(※) 45,000千円
- 浮体式洋上風力発電の導入可能性検討事業(※)
52,000千円

(※)・・・環境局所管事業

国による基地港湾の整備



洋上風力向け部品・部材メーカーの誘致・集積



風力発電関連産業の総合拠点形成



響灘洋上風力発電公募対象水域
(風車配置予定エリア)



響灘洋上ウインドファーム事業の着実な実施

SEP 型多目的起重機船「CP-8001」



【提供】五洋建設(株)

SEP 船等作業船基地の整備

令和4年度



北九州空港将来ビジョン推進強化関連予算

北九州空港将来ビジョン（H26.12）～3つの将来像～

「福岡空港と北九州空港の役割分担と相互補完」の考え方を基本とし、
3つの将来像の実現を目指す。

将来像1：九州・西中国の物流拠点空港 【物流】

将来像2：北部九州の活発な交流を支える空港 【交流】

将来像3：航空関連産業の拠点空港 【産業】

予算規模

●北九州空港将来ビジョン推進強化関連予算：764,434千円

コロナ禍の収束を見据えた旅客のV字回復の取組み、物流拠点空港に向け滑走路延長の早期実現につながる貨物の更なる取り込みや航空貨物定期便の安定化、貨物受入れ環境の構築などに取組む。

(拡充)	北九州空港物流拠点化推進事業	441,900千円
(継続)	北九州空港新規路線就航促進事業	41,630千円
(継続)	北九州空港アクセス推進事業	244,400千円

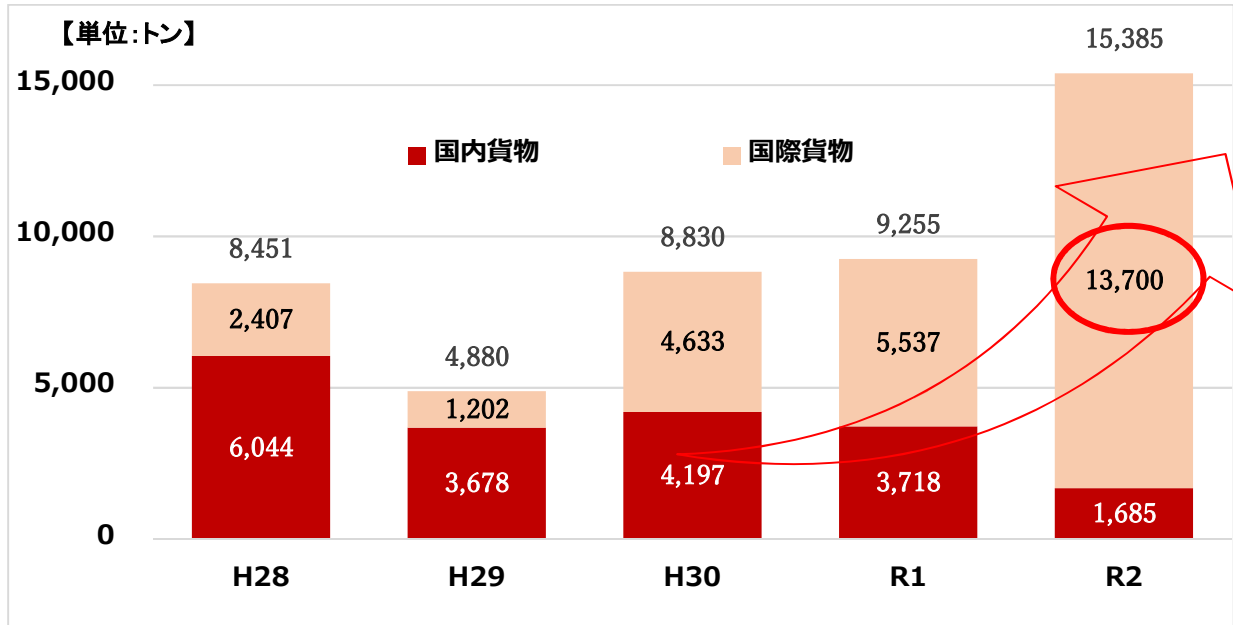
【問合せ先】

港湾空港局空港企画課 TEL:093-582-2308

担当：高岡（課長）、久米（係長）

北九州空港～「九州・西中国の物流拠点空港」～

1 航空貨物取扱量の推移



物流拠点化の加速に向けた取組

2 令和4年度当初予算における新規・拡充の取組み

- (1) 半導体サプライチェーン構築促進助成 (新規)
- (2) 物流事業者等進出促進助成 (新規)
- (3) 横持ち助成 (拡充)
- (4) 貨物重量助成 (拡充)

北九州空港の物流拠点化の進展

- 令和2年度の国際航空貨物取扱量が13,700tと過去最高を記録、全国第6位と大きく躍進。
- 令和3年11月に国際貨物定期便が週3便から週4便に増便され、輸送サービスが強化。
- 同月にシーアンドエア輸送による人工衛星の輸入が実現。
- 本年1月にヤマトグループが貨物専用機を導入し、日本航空と共同で北九州空港を九州の航空輸送拠点に選定。

